

3・2 青潮発生状況

2021年4月から2022年3月までの青潮発生状況を表2に示す。2021年度には4回の青潮発生が確認されているが、特に9月3日から10日に発生した青潮は期間も長く、一部でアサリやホンビノス貝のへい死報告があったが、その他の3回の青潮については、いずれも1日～2日程度で解消し、漁業被害の報告はなかった。

表2 2021年度の青潮発生状況

期間	発生場所（最大時）	漁業被害等
7/27～7/28	浦安～船橋港～茜浜沖～検見川沖～稲毛沖、千葉中央港	報告なし
9/3～9/10	市川航路の奥部、船橋航路～船橋港内部、茜浜沖～幕張沖、稲毛の浜～千葉中央港	一部貝類のへい死報告あり
9/27～9/29	船橋港内～船橋航路東側、千葉中央港内	報告なし
10/14～10/15	三番瀬～茜浜沖、千葉中央港	報告なし

3・3 青潮発生時の水質

9月3日から10日に発生した青潮発生期間中である9月7日に常時監視の調査が行われている。9月7日時点で青潮が確認されていた範囲は、船橋航路から幕張沖、稲毛の浜から千葉中央港までの沿岸域と船橋港内部、市川航路の奥部である。すなわち、図1におけるSt.2, 3は青潮発生範囲内であり、St.4は青潮発生の範囲よりもやや沖合である。また、St.8は東京湾内湾中央の地点である。

そこで、9月7日の多項目水質計による鉛直方向のデータの中からSt.3, 4, 8のDOの鉛直方向の変化を図2に示す。青潮発生範囲内にあるSt.3では表層のDOが2 mg/Lであり、貧酸素の底層水が表層まで湧昇していることがわかる。一方で、やや沖合にあるSt.4及び湾中央のSt.8では、底層水はDO 2 mg/L以下の貧酸素であるが、表層のDOは4 mg/L以上となっている。このため、表層DOはやや低いものの青潮にはなっていないことが確認できた。

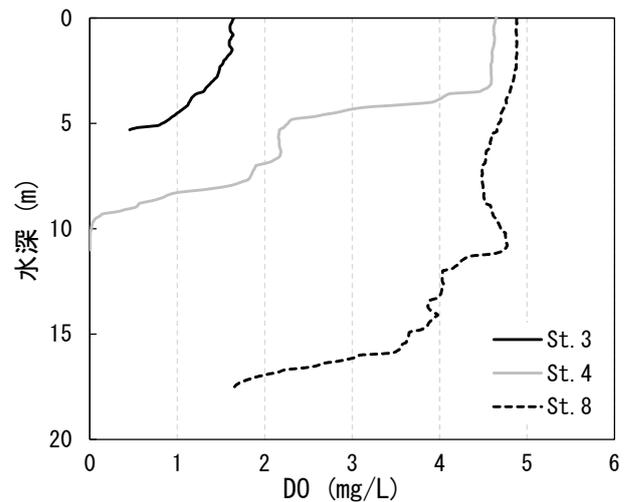


図2 9月7日のDOの鉛直方向の変化

参考文献

- 1) 飯村晃, 東京湾のモニタリング. 表面科学 36(4). 207-208. 2015
- 2) 東京湾の青潮発生状況. 千葉県環境研究センター年報 (2019～2021).

<https://www.pref.chiba.lg.jp/wit/suishitsu/report/index.html> (2022年8月時点).